

## 慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ

### xSDG コンソーシアム 2022 年度 研究プロポーザル

慶應義塾大学 SFC 研究所では、持続可能な社会を実現し、多様で複雑な社会における問題解決を行うため、2017 年 10 月に xSDG・ラボ（エックスエスディージーラボ）、2018 年 6 月に「xSDG コンソーシアム」を設立しました。スタートアップとしての第 1 期研究期間（2018-2020 年度）に続き、「行動の 10 年」の始まりを告げる第 2 期研究期間（2021-2023 年度）と位置づけ、5 年度目となる 2022 年度も、加速度を増して SDGs へ向かう世界をけん引したいと考えています。今まで以上に未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間である企業や自治体といったステークホルダーのみなさまと研究者とのコラボレーションにより、SDGs 目標達成へむけた先進事例や優良事例を作り、これを日本から世界に発信し、スケールアップを実践します。

\* xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間を「Vision Sharing Partner(VSP)」(会員) と呼称します。

#### ■ 目的

SDGs 達成へ向けたアクションの優良事例の創出と行動基準づくりを行い、これを通じた知識と実践の基盤を構築する

#### ■ 活動内容

##### 1) コンソーシアム・ミーティングで、アイデアの創発

全体会合となる「コンソーシアム・ミーティング」において、毎回テーマに沿った有識者による専門的知識の提供や、関係省庁関係者による最新の政策動向を基にした議論・意見交換・ワークショップ等の実施を通じて、SDGs 的アクションのあり方を検討します。結果に応じて、課題別分科会を創出します。また、SDGs の国際動向や国内実施、指標、政策の動き等に関する情報提供、情報交換を行います

\* 社会状況に応じて、交流会（レセプション形式）の設定も検討してまいります

##### 2) 分科会で、アイデアをアクションへ

分科会による個別課題を掘り下げた検討により、従来の境界線を越えた（業界横断の）基準や目標、そしてアクションを官民連携で創出します

- VSP からのご要望・ご提案により、テーマ設定のうえ、設置
- **未来財務情報 xSDG 分科会**：企業での非財務情報開示における SDGs の扱い方のガイドラインを検討します（2020 年度 - ）
- **シナジー・トレードオフ指標分科会**：SDGs のターゲットに関する取り組みを企業が推進した際に発生するシナジー/トレードオフの分析と、関連する複合指標の検討を行います（2021 年度 - ）

\* VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）は、分科会の設置提案と運営、参加が可能。VSP-G（G 会員）および VSP-SME（中小企業会員）は 1 分科会まで参加が可能

### 3) 企業と地方自治体、関係省庁と NGO/NPO とのコラボレーション創出

コンソーシアム・ミーティングや分科会に、企業と地方自治体、オブザーバーとして関係省庁や NGO/NPO が参加することで、パートナーシップ（目標 17）による目標達成を実装します

#### 想定されるパートナーシップ

- 内閣府地方創生推進事務局「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」と連携し、官民マッチング後の課題検討を深掘りし、実態を伴うプロジェクトを創出
- 蟹江憲史が 15 人の独立科学者の一人に選出されている国連による SDGs の進捗評価報告書、2023 年 Global Sustainable Development Report に成果をインプット

### 4) コンソーシアム相談会の開催

アクション創出へ向けたアドバイスの実施をいたします

- \* VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）が対象

### 5) シンポジウム等の開催

- \* VSP-S（S 会員）が対象

### 6) 年次報告会の開催

### 7) 年次報告書の公表

### 8) 「SDGs 白書」の刊行

### 9) その他の媒体による発信：例；朝日新聞未来メディア 2030 での発信、など

以上に加え、SDGs 推進事例として VSP の活動を取り上げる書籍企画（参考：『企業のリアルな事例でわかる SDGs の課題別推進方法』第一法規）、学生との協働（寄付講座設置（別途お申し込み）、授業との連動など）などの機会も検討いたします。なお、本ラボの活動にご参加いただいた場合、SFC 研究所 ヘルス・ランニングデザイン・ラボ（代表：蟹江憲史 <https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/lab/rdlab/>）の一部活動にご案内いたします（予定）。

- \* 全研究期間をつうじた活動による

#### ■ 成果（予定）

- ・ 年次報告会の開催（VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）による報告、など）
- ・ 年次報告書の発行（メンバー、VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）を中心に分担執筆）
- ・ 「SDGs 白書」の刊行（メンバー、VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）を中心に分担執筆）
  - 優良事例を中心に「SDGs のいま」を発信
  - 「SDGs 的出版」を予定（協力：インプレス R&D 社）
- ・ 各分科会による成果
  - 分野別 SDGs ガイドライン
  - SDGs 的認証基準
  - 分野別ターゲット など
- ・ 国連による「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム（High-level Political Forum on Sustainable Development ; HLPF）における、xSDG・ラボおよび xSDG コンソーシアム主催による公開イベントをニューヨークで開催
- ・ シンポジウム等の開催（VSP-S（S 会員）による）

\* 全研究期間をつうじた活動による

■ 研究期間

第 2 期研究期間：2021 年 4 月–2024 年 3 月

2022 年度研究期間：2022 年 4 月–2023 年 3 月

■ 2022 年度活動計画（予定）

- ・ コンソーシアム・ミーティング
  - 年 3 回程度開催
- ・ 年次報告会
  - 年 1 回開催
- ・ 「年次報告書」発行
- ・ コンソーシアム・相談会開催
- ・ 各分科会活動
- ・ デジタル・プラットフォームの提供
  - 会員メーリングリストへのご参加
  - ニュースレターの配信による電子媒体での情報提供
- ・ 外部イベント（シンポジウム等）への参加

■ 対象となる VSP（会員）

- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所との連携により、SDGs の優良事例創出を考える企業、組織団体
- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所との連携により、SDGs の優良事例創出を考える自治体

■ Vision Sharing Partner 制度（会員制度）

xSDG コンソーシアムは、SFC 研究コンソーシアム

（<https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/consortium/>）として実施される共同研究（年会費制）の一種となり、会員種別は次のとおりです。xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間として、会員の呼称を「Vision Sharing Partner(VSP)」としています。

これまでの xSDG コンソーシアム Vision Sharing Partner につきましては、下記 URL をご参照ください。

[http://xsdg.jp/activity.html#xsdg\\_consortium](http://xsdg.jp/activity.html#xsdg_consortium)

【特別会員】

VSP-S(S 会員) : xSDG・ラボとの共同研究および寄付講座を推進する(第 2 期研究期間(2021 年度から 2023 年度)において実施(予定含む)) 企業および自治体。年会費は、他の会員種別と同額となります

- ・ SFC との共同研究実施など、テラーメイドの活動を推進いただけます。共同研究の推進にあたっては、xSDG コンソーシアム VSP のみなさまとの協働により進める方法も可能です
- ・ コンソーシアム運営会議の中心メンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます
- ・ コンソーシアム・ミーティングおよび分科会に参加でき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向の分科会立ち上げやコーディネート、および推進いただけます
- ・ コンソーシアム相談会にご参加いただけます
- ・ 年次報告会で、SDGs への取り組みや関連活動を発表いただけます
- ・ 年次報告書に、SDGs への取り組みや関連活動を記載いただけます

- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます（1社あたり3名様）
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

#### 【企業・組織団体会員】

- VSP-D（D会員）：100万円／年
  - ・ コンソーシアム運営会議のメンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます
  - ・ コンソーシアム・ミーティングおよび分科会に参加でき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向の分科会立ち上げやコーディネート、および推進いただけます
  - ・ コンソーシアム相談会にご参加いただけます
  - ・ 年次報告会で、SDGsへの取り組みや関連活動を発表いただけます
  - ・ 年次報告書に、SDGsへの取り組みや関連活動を記載いただけます
  - ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます（1社あたり3名様）
  - ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
  - ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます
- VSP-G（G会員）：50万円／年
  - ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます（1社あたり2名様）
  - ・ 分科会1つにご参加いただけます
  - ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
  - ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

#### 【中小企業会員】

- VSP-SME（中小企業会員）（SME：Small and Medium-sized Enterprises）：30万円／年
- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます（1社あたり2名様）
  - ・ 分科会1つにご参加いただけます
  - ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
  - ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます
- \* 中小企業に相当するかどうかについては、お問い合わせください

#### 【自治体会員】

VSP-LG（自治体会員）（LG：Local Government）

- 都道府県および政令指定都市：50万円／年
- 市：30万円／年
- 町村：10万円／年
  - ・ コンソーシアム運営会議のメンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます
  - ・ コンソーシアム・ミーティングおよび分科会に参加でき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向の分科会立ち上げやコーディネート、および推進いただけます
  - ・ 年次報告会で、SDGsへの取り組みや関連活動を発表いただけます
  - ・ 年次報告書に、SDGsへの取り組みや関連活動を記載いただけます
  - ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます（1自治体あたり3名様）
  - ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に自治体名を記載いたします
  - ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

（会費は全て税別表記）

■ SFCメンバー

蟹江 憲史（政策・メディア研究科教授）  
代表、統括

植原 啓介（環境情報学部准教授）

ICT と SDGs

加藤 文俊（政策・メディア研究科委員長、環境情報学部教授）

地域活性と SDGs

カトラミーズ ターレク（政策・メディア研究科特任講師）

企業と SDGs

国谷 裕子（政策・メディア研究科特任教授）

SDGs の実施、ラボの研究成果発信、情報発信

佐久間 信哉（政策・メディア研究科特任教授）

地方自治体と SDGs

高木 超（政策・メディア研究科特任助教）

地方自治体と SDGs

田中 浩也（環境情報学部教授）

デジタルファブ리케이션と SDGs

玉村 雅敏（総合政策学部教授）

地域活性と SDGs

塚原 沙智子（環境情報学部准教授）

指標と SDGs

古谷 知之（総合政策学部教授）

統計と SDGs

村井 純（慶應義塾大学教授）

IoT と SDGs

（アドバイザー）

川廷 昌弘

（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン SDGs タスクフォースリーダー）

竹本 和彦（東京大学未来ビジョン研究センター特任教授、SDSN Japan 事務局長）

平本 督太郎（金沢工業大学准教授・SDGs 推進センター長）

森平 爽一郎（慶應義塾大学名誉教授）

関係省庁

その他ステークホルダー

（お問い合わせ先）

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ事務局

252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

E-mail : [xsdg@sfc.keio.ac.jp](mailto:xsdg@sfc.keio.ac.jp)